

令和7年度 仕七川幼稚園・小学校の学校評価 報告

I 教職員自己評価・学校関係者評価の結果

- アンケート実施期間：令和8年1月9日～1月23日
- 対象：教職員10人、学校関係者20人
- 回収率：教職員100%、学校関係者70%
- 質問に関する主語：教職員「私は、」 学校関係者「学校は、子どもたちは、」

【凡例】

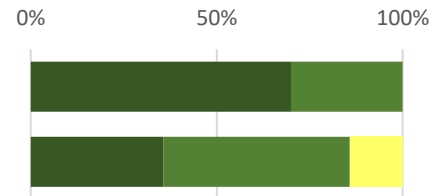
とても思う（4） 思う（3） あまり思わない（2） まったく思わない（1） 分からない



※ 教職員回答者は、事務職員、支援員、専科非常勤講師等、本校に関わる全ての教職員を対象としているため、項目によっては「分からない」との回答もあります。

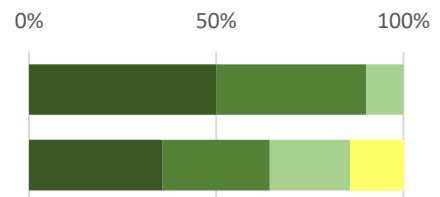
1 ふるさとを誇りに思う教育

		平均	昨年度平均	
教職員	仕七川を大切に、誇りに思うような教育を子どもたちに行うよう心掛けていますか。	3.7	3.5	↗
学校関係者	本校（園）の子どもたちはふるさとを愛し、誇りに思う気持ちが育っているように思いますか。	3.4	3.6	↘



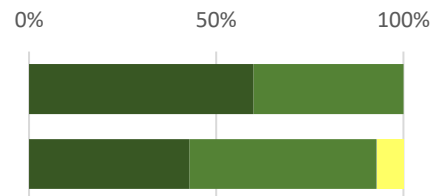
2 地域との連携

		平均	昨年度平均	
教職員	学校の教育目標のもと、地域との連携に努めていますか。	3.4	3.1	↗
学校関係者	本校（園）は、学校（園）教育、家庭教育、地域教育の連携が図れていると思いますか。	3.2	3.5	↘



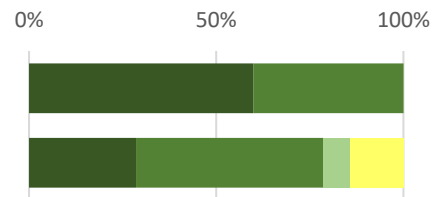
3 体験活動の充実

		平均	昨年度平均	
教職員	子どもたちの豊かな情操を育むよう、いろいろな体験活動を充実させようとしたしましたか。	3.6	3.1	↑
学校関係者	本校（園）では、地域での活動や体験活動を積極的に取り入れていると思いますか。	3.5	3.8	↘



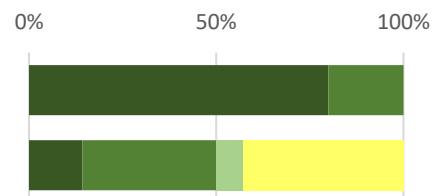
4 異年齢集団活動の充実

		平均	昨年度平均	
教職員	異なる学年の子と協力する活動を、積極的に進めようとしていますか。	3.6	3.4	↗
学校関係者	本校（園）では、子どもたちの異年齢集団の活動を積極的に進めているように思いますか。	3.3	3.8	↓



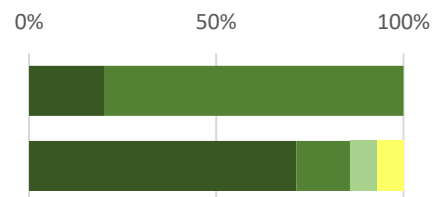
5 人権・同和教育と特別支援教育の推進

		平均	昨年度平均	
教職員	普段から「いじめ」を許さず、個別に抱える問題に配慮した教育に努めていますか。	3.8	3.6	↗
学校関係者	本校（園）では、「いじめ」の未然防止や早期発見・対応に取り組んでいるように思いますか。	3.1	3.4	↘



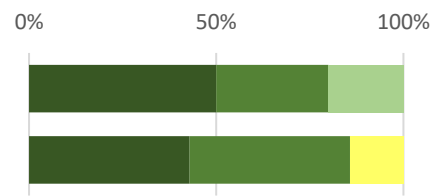
6 豊かな思考力・判断力・表現力の育成

		平均	昨年度平均	
教職員	子どもたちが、自分の考えや思いを適切に表現できるような場を意識して設定し、指導をすることに努めましたか。	3.2	3.3	↘
学校関係者	本校（園）の子どもたちは、運動会や学芸会等の様子などから、自分の思いや考えをきちんと表現できていると思いますか。	3.7	3.8	↘



7 集団の中での所属感の確立

		平均	昨年度平均	
教職員	集団のために自分ができることをしようとする態度を、子どもたちに身に付けさせようとしていますか。	3.3	3.2	↗
学校関係者	本校（園）の子どもたちは、集団の中で役割を果たし、生き生きと活動しているように思いますか。	3.5	3.7	↘



8 最後までやり抜く力の育成

		平均	昨年度平均		0%	50%	100%
教職員	子どもたちに、粘り強く最後までやり抜く力を身に付けさせようとしていますか。	3.5	3.5	→			
学校関係者	本校(園)の子どもたちは、様々な活動に粘り強く取り組んでいると思われますか。	3.4	3.7	↓			

9 広報活動の充実

		平均	昨年度平均		0%	50%	100%
教職員	家庭や地域への連絡・情報提供を必要に応じて行っていますか。	3.5	3.1	↗			
学校関係者	本校(園)は、学校だよりやホームページ等で、学校の様子をしっかりと伝えていると思いますか。	3.5	3.5	→			

II 分析と今後に向けて

本校の教育計画に基づき、幼小連携・接続の意味から同じ評価項目を設け、児童・教職員・保護者・学校関係者の立場から回答いただいた。

I 分析

(1) 重点目標①：1～6 ふるさと学習を通じた豊かな心の醸成〈やさしい子〉

(ふるさと教育、地域連携、体験活動、異年齢活動、道徳、人権・同和教育・特別支援教育)

【ふるさと教育・地域連携】

児童は、「ふるさとを誇りに思う(4.0)」、「地域の方との学習(3.8)」を高く評価しており、昨年度からも上昇した。教職員も地域連携への意識が向上している(3.1→3.4)。ただ、学校関係者の評価が昨年度3.5から3.2へ下降している。

【体験活動・異年齢集団活動の充実】

体験活動では、教職員の自己評価が昨年度の3.1から3.6へと大幅に上昇しており、意欲的な取り組みの様子が伺える。児童、保護者の評価も高い。

異年齢集団での活動も、児童(3.8)や保護者(3.5)からは、肯定的な評価を得ている。

【道徳・人権・同和教育・特別支援教育】

児童の「いじめをしない態度」は3.4と一定の水準を維持しているが、保護者から見た「道徳で学んだことの家庭での実践」は3.0と、昨年度の3.3から下降傾向にある。

※「ふるさと教育」や「地域連携」への評価が高い一方、道徳の実践面や家庭との連携に課題が見られる。

(2) 重点目標②：7～12 少人数を強みに変える教育活動の充実〈考える子〉

(基礎・基本、自ら学ぶ学習、学びの質、思考・判断・表現、情報教育、課題発見・振り返り)

【基礎・基本と自ら学ぶ姿勢】

児童自身は「自分の力で学習を進めている」と感じているが(3.7)、保護者の視点では「自主的な家庭学習習慣」は3.0に留まっている。

【学びの質の向上とタブレット端末の使用】

学校や交流学习で友達と協力する点については高評価であるが、ICT活用については児童が低下(3.9→3.5)し、教職員も3.2と低めとなっている。

【課題発見と振り返り】

「目標を決めて努力する」項目では、児童が3.6と向上を示したのに対し、保護者(2.8)や教職員(3.1)の評価は低く、評価の乖離が見られる。特に保護者平均2.8は全項目中で最も低い数値の一つである。

※ ICTの活用と児童と家庭の評価に乖離が見られる点に課題がある。

- (3) 重点目標③：13～18 体験を通した心身の鍛錬〈やりぬく子〉
(所属感、自己肯定感、最後までやり抜く力、体力づくり、危機回避、広報活動)

【所属感と自己肯定感、最後までやりぬく力】

児童は「仲間との活動が楽しい(3.8)」と強く感じており、自己肯定感も3.5と昨年度より向上している。最後までやり抜く力についての保護者の評価が低めである。

【体力づくりと危機回避能力】

体力づくりは、児童の評価が3.1→3.8と昨年度から大幅に上昇した。教職員の声掛け(3.7)も効果を上げていると考えられる。危機回避能力の育成も児童、教職員共に向上した。

【広報活動】

学校からの情報発信(ホームページ等)に対し、保護者(3.8)や学校関係者(3.5)から比較的高い評価を得ている。自由記述でも「ブログを毎日楽しみにしている」との声が寄せられている。

※「学校の楽しさ」と「体力向上」が今年度の顕著な特徴(強み)として現れている。

- (4) 管理運営：19～28 教職員の組織運営とマネジメント

(服務規律、組織づくり、自己研鑽、健康、環境、点検、個人情報、会計、リスク/クライシスマネジメント)

【組織づくり】

「チームとしての組織づくり」が昨年度の3.1から3.6へと大幅に向上しており、学校運営ビジョンの共有が図られていることが伺える。

【自己研鑽】

評価が2.9(昨年度3.1)と下降し、赤色評価(3.0未満)となっている。多忙なため、自身の資質向上に充てる時間の確保が難しいことが推測される。

【リスク・クライシスマネジメント】

リスクマネジメントが2.9(昨年度3.7)と激減している。また、クライシスマネジメントも3.0と低水準となっている。マニュアルの確認や予防策の徹底について再検討が必要である。

※組織力は向上しているが、自己研鑽とリスク管理に課題がある。

- (5) 分析まとめ

全体として、「ふるさと教育」や「体験活動」を通じた豊かな心の育成には高い評価が得られている一方、「学習習慣の定着」や「リスクマネジメント」などの実務・習慣面に課題が見られる。また、学校関係者評価の低下が見られ、校長が変わったことによる学校関係者との連携不足が明らかとなっている。

2 学校関係者からの意見・要望等

学校関係者からは、アンケートにより各項目の評価と自由記述の形式で御意見をいただいた。

アンケートにおいては、昨年度と比較すると、広報活動以外のすべての項目で平均数値が低下していた。これらの結果を受け、来年度は、より学校の様子を積極的に紹介し、今まで以上に地域と共に歩む学校を意識した教育活動を推進していきたい。

- (1) 自分の意見をまとめることが上手くなったと思います。
- (2) えひめこども美術展で複数の児童の形になる作品が高い評価をされたことは、子供たちの自由な発想と指導する先生方のマッチングの成果だと、とても感動しました。今後ともご指導のほど宜しくお願いします。絆の会もできる範囲でサポートさせていただきたいと思っています。

- (3) 私は、学校へ通う意義の一つに「友達を作る」があると思っています。
今、少子化、過疎化に伴い生徒数が減少していますので、他校との交流などで友達を作れる機会を与えていただけたらと思います。
設問で不明とした部分があるのは、そこまで学校のことが分かっていないからです。時折、子供たちの様子をみることがありますが、生き生きとしていて健康（心もふくめて）に育っていると感じます。それは、先生方の指導の賜物と思っています。これからもがんばっていただけたらと思います。
- (4) 仲良く過ごせていると思います。
集団生活の中で、自分だけが良いのではなく相手の気持ちをくみ取ったり、悪いと思ったら謝り「いいよ」という言葉をもらう、これから人の多い中に出ていってもひるまない、優しい心も持って強いメンタルを持って過ごしてくれたらいいなと思います。
ただ、何かする時「そんな事したら〇〇先生に言ってやろー」という言葉に低学年はやめざるを得ない、人がダメと言うと、その人に従わなければやらない様な事はどうかと思います。自分がやっている事はさておいて、注意ばかりしたり…気づいてほしいなと思います。
大人もあれダメこれダメと言わない様、やった事ない事を危ないからやめさせたら、大きくなってもっと危険な目にあいます。
- (5) 不易流行でお願いします。

3 学校評議員会より(学校評議員からの意見・要望等)

学校関係者からは、アンケートにより各項目の評価と自由記述の形式で御意見をいただいた。学校評議員会では、子供の健全育成や幼稚園・小学校の活性化のために学校、家庭、地域の連携について活発な意見交換を行い、多くが学校に対する激励、子供たちの活動を評価していただくご意見

- (1) (学校関係者の評価が低いこと、今年度の12月から、民生委員・児童委員の一部の方が変わられたことを受けて) 学校関係者の中には、学校への関心が薄い方がいるのではないかな。
- (2) 子どもたちの多くは、宿題を絆の会の預かりの時間帯で終わらせている。そのため、家庭で学習をしている姿を見ることが減り、家庭学習の評価が低くなっているのではないかな。
- (3) (来年度、面河小から2名の児童を迎え、全校児童が13名になることを受けて) 児童数が増えることは喜ばしい。ただ、幼稚園に入園する子がいないのが残念である。将来的にも増える可能性が少ない。移住促進などの手立ても必要である。
- (4) (面河小学校区も仕七川小学校区なることを受けて) 来年度からの学校評議員の選出や地域との関わりをどのようにするのか考える必要がある。
- (5) 図画工作科の入賞作品がすばらしい。今年は陸上での入賞もあった。HPでも学校の様子がよく分かる。先生方の指導力に感心している。先生方の学校評価(自己評価)が厳しいのではないかな。
- (6) フェンスにある交通安全の垂れ幕の破損が気になる。外してはいけなないかな。

4 来年度に向けて

- (1) 本校はふるさととのふれあいや地域とのつながりを意識した教育活動が核となっており、来年度は、指定されている環境教育研究推進校の2年目となる。「ふるさと仕七川」のよさを感じられる学習活動を更に充実させ、地域と共に児童を育てていきたい。そのために、全教職員共通理解の下、児童の自己肯定感・自己効力感の向上や集団の中での自分の存在意義、人と関わる楽しさを感じられるような学習・体験活動の充実を図りたい。
- (2) 家庭学習の習慣化や課題発見・振り返りの項目で児童と保護者・教職員に意識の乖離がある。この差が生まれた原因を分析し、具体的な取組を再度教職員が協議して実行していく。
- (3) 学校だよりやホームページだけでなく、地域に向けての積極的な発信を行い、学校関係者等の地域の方々や面河地区の方々との連携を強化する。
- (4) 児童の安全な学校生活を守るためにも、教職員のリスク・クライシスマネジメントへの意識を高め、不測の事態の予防・備えを確実に行う。また、教職員が自己研鑽に励むための時間・場を確保する。そのために、管理職からの声掛け、意識付けを強化する。